

若者を応援する

■「モノづくりのまち」として

にかほ市は「ものづくりのまち」として県内でも広く認められた存在です。それはTDKを始めとする製造業を中心とした企業が集積し、県内屈指の工業都市として栄えてきたからです。

近頃、「なぜにかほ市は工業都市になりえたのか？」というのをあらためて考えることがあります。もちろん、多くの人たちの不断の努力があったからではありませんが、それだけではない理由もあったはずですよ。

■先人たちの想い

一昨年、前企業活性化アドバイザーの佐々木弥一郎氏が「にかほ市製造業の生い立ちについて」というレポートを作成してくれました。それは三四半世紀以上前の平沢に東京電気化学工業の工場が建設されたところから始まり、今日に至るまでの市内の中小企業の系譜をたどったものです。

このレポートそのものは端的に事実関係を列記したものではありませんが、その行間から当時の血気盛んで、向上心に満ち溢れた若い企業人たちの活力を想像することができます。そして、その精神性の根幹に、齋藤憲三先生の思想を垣間見ることができるとは思います。

ここで私が述べたいのは、「齋藤憲三先生の精神」をこの地で実現させていく

上での原動力は何だったのかという疑問です。モノづくりのまちとして、にかほ市が発展していく上での原動力、私はこれに着目しなければならぬと思っています。

■原動力は何か

原動力をみるときに、私は明治維新が参考になると思います。

明治維新の歴史的な位置づけとして、私は「日本における市民革命」と勝手に言っています。「いやいや欧米における市民革命とは毛色が異なり全く違うものだ」と言われてしまうかもしれませんが、維新後の殖産興業、近代化などを見れば、ヨーロッパの市民革命とその後の産業革命への道筋とダブるものがあると思っています。

そして、多くの人が言うように、確かに明治維新の実現には、西郷隆盛や大久保利通、木戸孝允や伊藤博文、そして坂本龍馬などの傑出した若い力が必要だったことに異論はありませんが、私はそれだけでは足りないと思っています。むしろ、彼らは維新を実現させた理由の半分は過ぎず、より大切なのは若い彼らを後ろで支えた大人たちの存在だと思っています。坂本龍馬にとつての勝海舟のよう

■昭和の精神を令和に

考えるに、かつて私たちが暮らすこの

地域にも、大志を抱き、夢を追い求める若者たちが多数いたはずですよ。そして、彼らが夢を実現させていくときに、時には厳しく、時には優しく、見守り、叱り、支援し続けてくれる後見人のような大人たちがいました。その代表的な人物こそがTDKの山崎貞一先生でした。

チャレンジをする若者と、彼らを応援する大人たちが存在したことが今のにかほ市を創りあげるうえでの原動力だったと私は考えています。

最近になって、起業を目指す多くの若者が市内で頑張ってくれています。中には県外からの若者たちと市内の若者たちがコラボしながらチャレンジをしている姿も見受けられます。私は大人の一人として、チャレンジする若者たちを応援していきたいと考えています。その理由は決して大袈裟なものではなく、もともとこの地域に根差していた精神性を体現させることに他ならないからなのです。



にかほ市長
市川雄次